

「自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける No.23 われこそ真夏の花 Flowers in Midsummer 」

2020年8月22日

東京では8月に入り35℃を超える猛暑日数が10日に達した。日中外出すると熱風が体をつつみ、痛みを感じる。下旬になっても暑さはやわらがない、異常気象か？

昆虫だけでなく猛暑を謳歌している植物がある。何と言っても第一はヒマワリだ。20日前後に近隣を歩いていると既に咲き終え、首を垂れているのが目に入る。ところが、芦花公園では、背丈が低いヒマワリが3部咲き。？？：どうもコロナ禍で、小学生が種蒔きすることができず、花の丘ボランティアが矮性の種を蒔いたようだ。

青色朝顔にもいろいろな種類がある。色の濃さの違いだけでなく、曜白はアサガオとマルバアサガオの種間雑種として1976年に作られた珍しい(人気)の朝顔。琉球朝顔は、いくつもの青色の花と厚手の葉が密集して数メートルもの高さに伸ばし、昼間も遅く咲き続けるところが日本朝顔と異なる。実は、西洋朝顔の大部分は青系統の色で、アオアサガオと呼ばれることがある。

葵(アオイ)科の芙蓉も夏を代表する花だ。ピンクの美しい花が数メートルの枝先に咲き揃う。白色は比較的少ない。面白いのは酔芙蓉。朝は花が純白だが、午後になると花弁が薄赤色になり、夕方には全体が赤に染まる。酒に酔って顔を赤らめていく様に似ている。写真の花弁を閉じた赤い部分は、二日酔い状態？ 薄黄色の花のオクラも葵科で、実だけでなく花も食べられる。モミジ葵は花弁が離れている点が他の葵と異なる。

グラジオラスは小さな剣を意味する花で、地面から並列に咲く花と共に伸びる葉の形が剣に似ていることから名付けられたと言う。

http://sengawacx.com/LookNatureNo23_2020.jpg